



# 牧が丘

学校教育目標

- ◆自主 自主的に学習し生活する。
- ◆創造 発想を広げ創意工夫する。
- ◆奉仕 広い視野に立って、思いやりの心(愛)で行動する。

令和6年9月号



## 表現力の向上に向けて

真岡市教育委員会指定学力向上推進協力校として令和5年度から取り組んできた研究推進も、いよいよまとめの時期となりました。11月14日に真岡市内全小中学校の先生方をお呼びして、研究授業と研究の成果発表を行う予定です。

ご存じの通り、表現力の育成をテーマに授業改善に取り組んできました。9月の校長講話でも、生徒達と表現力を高める授業への取組について確認いたしました。

右の図は、生徒達がタブレットを使用して考えた「表現力を高める授業の3つの心構え」です。【自分の考えを持とう】【積極的に発言しよう】【意見の違いを追求しよう】を合い言葉に、生徒達も主体的に表現力を高めようと努力しております。

是非ともご家庭でも、生徒の表現力を高める具体的な取組をお願いしたいと思います。具体的には【マイプランノートへの学年に応じた文章の記入】【時事等に関する家族での会話】を積極的に推進していただきたいと思います。高校入試にもディベートの導入が検討されたり、大学入試や就職試験でも発信力・発言力が求められる時代へと変革しております。学校と家庭が同一歩調で、時代が求める表現力の育成に取り組めたらと願います。

## 自分の言葉で伝え合う生徒の育成 ～多様な意見が適切な表現で飛び交う授業を目指して～



## 奏でるハーモニー ～芳賀地区音楽祭～

9月25日に芳賀地区音楽祭が開催され、合唱の部には3年生を中心とした特設合唱部の生徒達が出場しました。今年度の特設合唱部は、「二十億光年の孤独」という難しい曲にチャレンジしました。中村中学校の卒業生で声楽家でもある渡谷先生のご指導もいただき、聴く人の心を揺さぶる感動的な合唱を披露してくれました。結果は惜しくも銀賞で県大会への出場は叶いませんでした。これまで情熱を注いできた野中教諭から結果を伝えると、生徒達は涙を流していたとのことでした。それだけ、気持ちを込めてきたからこそその涙であったことと思います。夏休みから結成した特設合唱部の生徒たちの心のこもった素敵な歌声に心からの拍手を送ります。

そして、吹奏楽部も県大会を目指して取り組んできました。今年の「ひまわり」という曲は、夏の情景を歌ったもので、中村中の演奏を目を閉じて聴いていると、夏の情景が浮かんでくる素晴らしい演奏でした。惜しくも銀賞となり、県大会への出場は叶いませんでしたが、私たちよりも演奏している生徒たちが自分たちの演奏の素晴らしさを実感してくれたことと思います。



会場を魅了した特設合唱部

## 青春の汗と涙 ～芳賀郡市新人各種大会～

9月27日～30日にかけて芳賀郡市新人各種大会が開催されました。6月の総体を終え、3年生からチームを引き継いだ1・2年生。特に、夏休みの猛暑の中の練習を耐え抜いての大会でした。県大会出場を決めて涙を流して喜ぶ生徒たち。惜しくも県大会出場を逃して悔し涙を流す生徒たち。いずれも、やれる限りの努力をして臨んだ大会であったことを照明してくれる涙でした。

各会場を回って感じたことは、中村中学校のどの部も、選手と指導者、そして応援が一体感に溢れていたことです。勝利を目指して真剣に指示を与える指導者、選手同士で声をかけあい励まし合う選手たち。その様子を温かく見守り、必死に声援を送って下さった保護者の姿がありました。

10月18日から県大会が始まります。出場権を得た部は、芳賀郡の代表としての自信を持って力を存分に発揮してくれることを願います。そして、総体は来年の6月。約8ヶ月の期間があります。この8ヶ月を、一日一日、一歩ずつ確認しながら、総体では全ての選手たちが「喜びの涙」を流してくれると信じています。



久しぶりに県大会の扉を開いたバレー部



県大会出場を勝ち取った卓球部

## 【子育て談話室】「鳥の目・虫の目」

中学生になって手がかからなくなったとはいえ、思春期の子育てにも悩みは絶え間なくやってきます。勉強のこと、進学のこと、部活動のこと、友達関係のことなど。生徒たちには校長講話で話しましたが、思春期は荒波の川を向こう岸まで渡るようなものとも言われています。つまり、思春期を迎えた子どもは、闇雲に、しかも必死に向こう岸に渡ろうとしているだけなのです。そんな必死に人生を切り拓こうと頑張る我が子を応援する保護者の皆さんには、鳥の目と虫の目を持っていただきたいと思います。虫の目は、悩む我が子と同じ目線に立って、寄り添ってあげること。親としての愛情をたっぷりと与えてあげることも大切です。一方で、鳥の目は、「耐えなさい」「自力で乗り越えなさい」と悩む我が子をちょっと距離をおいてそっと見守ることです。自力で乗り越えた経験は、自信になり、自分の人生を自分自身で切り拓く術を身につけることでしょう。場面に応じて、鳥の目と虫の目を上手に使い分けたいものですね。(子育てティールーム 募集しています。)



## 大活躍!!中村中学校父親の会 (Nakamura Father Assosiation)

9月2日(月)、始業式に併せてNFAの方々が全生徒にかき氷を振る舞って下さいました。夏休みが終わったむなしさを吹き飛ばすかのような、生徒達の素敵な笑顔で2学期をスタートさせることができました。9月21日(土)には、環境整備にもご協力いただきました。父親の会の主体的な取組に感謝しております。



## 表現力を高めるために

9月30日(月)に、真岡市教育委員会の先生方を講師に招き、職員研修を行いました。本校では、昨年度から真岡市教育委員会指定研究校として、研究主題「自分の言葉で伝え合う生徒の育成 ～多様な意見が適切な表現で飛び交う授業を目指して～」を研究しています。

今回、3年生社会「新しい人権～自己決定権は死に方を選ぶことができるか～」、2年理科「マグネシウムを二酸化炭素の中で燃やす実験」と2名の教員がそれぞれ研究授業を行いました。授業中は、2年生も3年生も自分の意見を活発に発言することができ、1年半の研究成果を実感することができました。

放課後、図書館にてそれぞれの授業について教員が4つのグループに分かれ、今回の授業に対する話し合いを行いました。11月14日(木)には、主に芳賀郡内の先生方に向けて公開授業研究会を行います。生徒の表現力の更なる向上のため、教員も、日々、研鑽を積んでいます。



話し合いを深める3年生



実験を行う2年生



授業の考察を深める教員